

福祉医療協の歴史とこれから ⑦⑤

済生会中和病院のあゆみとこれから

社会福祉法人 恩賜財団 済生会中和病院
総務課長 川東 和茂

〇はじめに

済生会は明治44（1911）年、明治天皇の「済生勅語」により設立され「施薬救療」の理念のもとに、全国約390施設が医療・保険・福祉に取り組む日本最大の社会福祉法人として活動しています。

本院は昭和17（1942）年恩賜財団済生会桜井診療所として開設し、昭和29（1954）年に済生会中和病院となり現在に至ります。基本理念に「地域の医療と福祉を支える済生会」を掲げ、地域に密着し、市民・行政・医師会から信頼されること、職員が誇りをもって働ける職場にすること、財政基盤を健全に維持することを基本方針とし、一貫して地域医療に取り組んでいます。

■開設

昭和16（1941）年1月、当時は戦時下による医師不足問題と、地元桜井町および隣接13カ町村の生活保護を必要とする約4,400名の医療救済が問題となり、奈良県済生会に診療所設置が陳情されました。昭和17（1942）年6月1日貧困者の慰労救済を目的に、奈良県済生会

創立30周年記念事業の一環として、奈良県磯城郡桜井町1059番地に桜井診療所が開設されました。



昭和40年頃

■中和病院への変更

その後利用者の増加に伴い、昭和29（1954）年6月1日、現在地に名称を「済生会中和病院」と変更し当院を開設しました。開設時は木造2階建1棟で、診療科目は内科、外科の2科目、許可病棟は24床。職員は医師3人、看護婦5人、その他8人の陣容でした。

■黎明期

昭和30（1955）年に結核病床40床を増築し、昭和31（1956）年には一般病床を50床に

増床しました。結核患者の増加により昭和33(1958)年に放射線科を開設しました。昭和45年(1974)には新館の完成により、一般病床152床、結核病床48床の合計200床となりました。医療需要が高まり、昭和56(1981)年4月には救急指定病院の告示を受け、病床も昭和59(1984)年5月には本館の完成で260床に増床しました。平成6(1994)年4月1日には「介護老人保健施設シルバーケアまほろば」を開設し、地域住民の要望に応えられる保健・医療・福祉の総合サービスを目指しました。



昭和49年頃

■ 拡大期

- 平成13(2001)年4月にはすべての増改築工事が終了し、一般病床292床、感染10床、療養型48床の合計350床となり、診療科も12科となりました。
- 平成14(2002)年4月には近隣の5病院で二次救急輪番制を開始し、救急医療の充実を図りました。
- 平成15(2003)年11月、臨床研修病院の指定を受け医師の育成にも力を入れました。
- 平成16(2004)年3月には奈良県の依頼を受け、東和医療圏の災害拠点病院に指定されました。平成16(2004)年10月には病理診断の迅速化を図るため病理診断科を開設し、平成16(2004)年11月には患者の意見や要望に応えるため総合相談室も開設しました。
- 平成16(2004)年11月14日には、創立50周年を記念し、健康フェスティバルを開催しました。翌年からは毎年「健康フェア」を開催し、地域住民との交流を図っています。平成19(2007)年からは、地元の幼稚園児のマーチングバンドにお願いし、保護者だけでなく職員も楽しみの催しになりました。
- 平成18(2006)年7月からDPC病院となり、平成19(2007)年3月には外来化学療法室を開設し外来移行を図りました。平成20(2008)年7月には7:1看護を取得しました。
- 平成21(2009)年1月、女性特有の症状に配慮して、女性外来(乳腺外科、婦人科、女性泌尿器科)を開設しました。平成21(2009)年4月には精神科も開設しました。
- 平成23(2011)年6月には、患者サービスの向上を目指し、看護外来(がん治療相談外来、皮膚・排泄ストーマ外来、フットケア外来)を開設し、生活の質の向上を支援しています。
- 平成24(2012)年3月には放射線治療棟が完成し、平成24(2012)年7月から放射線治療を開始しました。平成24(2012)年7月子育て支援の一環として院内保育所「キッズランドひまわり」を開園し福利厚生の実現を図りました。
- 平成25(2013)年5月桜井市から要請を受け、病児保育所「さくらんぼ」を開園し、病気の児童を一時的に保育することで安心して子育てができる環境整備を図りました。
- 東和医療圏の公的病院として、地域包括ケアシステムの医療機関としての役割を果たすべく平成26(2014)年7月「奈良県地域がん診療連携支援病院」に指定、平成27(2015)年7月「地域医療支援病院」に承認されました。
- 平成27(2015)年7月東館を竣工し、「健診センター」(防犯センター・内視鏡センター)

を開設しました。

- 平成28（2016）年には総合診療科を開設し、2次救急病院として年間2,000件以上の救急の受け入れをしています。



昭和58年頃

■ 変革期

- 平成31（2019）年4月「在宅療養後方支援病院」として認可され、関連医療機関は12施設となりました。
- 令和元（2019）年7月には消化器センターならびに呼吸器センターを開設しました。平成31（2019）年4月には腎・透析センターを開設し、腎疾患・糖尿病性疾患への取り組みを強化しました。令和元（2019）年9月には一次脳卒中センターに認定されました。外来ならびに入院治療としてはセンター化を図り診療科目を横断した総合的な診療体制をとっています。
- 令和2（2020）年2月には新型コロナウイルス感染症発熱・接触者外来を開設し、同4月ドライブスルー検査場ならびに受け入れ病棟を開設しました。
- 令和2（2020）年7月にはHCUを開設しました。令和2（2020）年10月「無菌室」を2室（8床）設置し、血液疾患などの化学療法高度治療を開始しました。

○おわりに

今年、済生会中和病院は記念すべき開設70周年を迎えます。これを機に、中和病院のあるべき姿に向けての体制を整えます。中和病院のあるべき姿を考えることにおいて重要なポイントが2つあります。1つは団塊の世代が後期高齢者に到達する2025年に向けて協議が進められてきた地域医療構想の視点、もう1つは高齢者人口がピークに近づく2040年に向けて様々な検討が進められている「地域完結型」医療・介護供給体制構築の視点があります。奈良県地域医療構想では病院を、救急や急性期を扱う「断らない病院」と回復期や慢性期を扱う「面倒見のいい病院」の2つに分け、その両方の連携を図ることで病院機能の再編と統合を推進しようとしています。済生会中和病院は東和医療圏の特殊性も考慮して、その両者の機能を併せ持つ「地域完結型」ケアミックス病院を目指すことを認めていただいています。

70周年記念事業として種々の院内整備を計画しております。その1つとして手術室を改装し手術支援ロボットを導入することが挙げられます。他にも病棟・外来の整備、患者さん方が買い物をしたり休息できる場所を設置する予定です。

急性期から回復期まで切れ目なくつないでいく、そして済生会の理念にもとづく医療を提供していくことができるよう職員一同力を合わせて施薬救療にあたっていきます。



現在の済生会中和病院